

# 【 津 久 見 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

※網掛けは、全国平均正答率を上回っているもの

|           |              |            | 津久見市 | 大分県  | 全国   |
|-----------|--------------|------------|------|------|------|
| 全体        |              |            | 67.0 | 69.0 | 66.8 |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能       | 言葉の特徴や使い方  | 82.6 | 83.8 | 76.9 |
|           |              | 情報の扱い方     | 62.0 | 63.4 | 63.1 |
|           |              | 我が国の言語文化   | 88.0 | 82.9 | 81.2 |
|           | 思考力・判断力・表現力等 | A話すこと・聞くこと | 62.7 | 65.8 | 66.3 |
|           |              | B書くこと      | 66.7 | 70.6 | 69.5 |
|           |              | C読むこと      | 59.5 | 59.8 | 57.5 |
| 評価の観点     | 知識・技能        |            | 78.8 | 78.5 | 74.5 |
|           | 思考・判断・表現     |            | 62.6 | 64.9 | 63.8 |

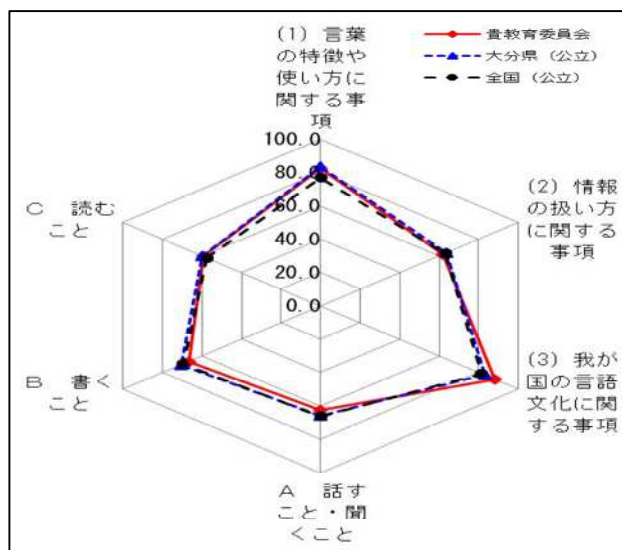
#### 小学校：国語

○全体の平均正答率は全国を上回ることができた。

○無回答率は全国・県に比べて低い傾向にある。

●昨年度と同様に、評価の観点「知識・技能」は全国を上回っているが、「思考・判断・表現」になると全国・県の数値を下回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」も昨年度と同様に、全国の数値を超えることができなかった。

●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかをみる問題に課題が見られる。



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

○話し手の考えと自分の考えを比較して、共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめる授業展開を構想する。

(1) 共通点と相違点を整理する活動の機会を設定する。

- ・思考ツールを使って、思考を視覚的に整理する。
- ・違いがあることを「よさ」として受け入れる態度の育成を図る。

(2) 文型で自分の考えを書かせる。

・「自分は～考える。その理由は～だ」「～は同じだが、～はちがう」といった文型で自分の考えを書かせる活動を設定する。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

※網掛けは、全国平均正答率を上回っているもの

|          |          | 津久見市 | 大分県  | 全国   |
|----------|----------|------|------|------|
| 全体       |          | 62.0 | 60.0 | 58.0 |
| 学指導要領の領域 | 数と計算     | 67.4 | 63.3 | 62.3 |
|          | 図形       | 63.3 | 60.0 | 56.2 |
|          | 測定       | 56.5 | 55.8 | 54.8 |
|          | 変化と関係    | 54.0 | 57.2 | 57.5 |
|          | データの活用   | 62.4 | 63.0 | 62.6 |
| 評価の観点    | 知識・技能    | 71.5 | 68.2 | 65.5 |
|          | 思考・判断・表現 | 50.2 | 48.9 | 48.3 |

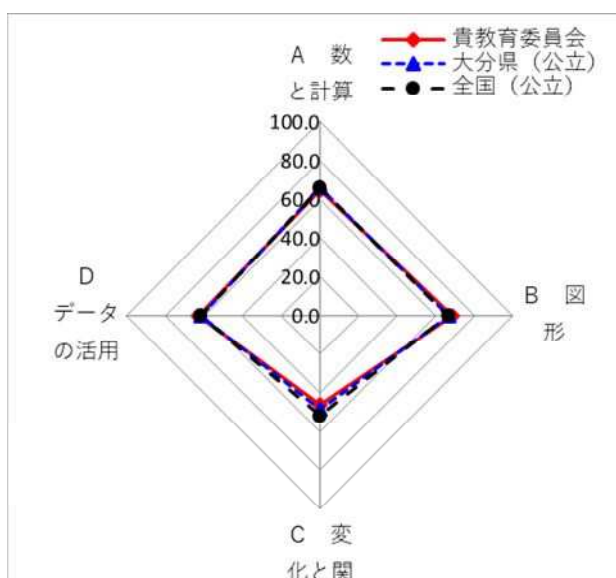
#### 小学校：算数

○評価の観点「知識・技能」は全国・県を上回っており、5年続けてよい結果が出ている。「思考・判断・表現」についても今年度は全国・県を上回った。

○領域「数と計算」「図形」に関わる問題の正答率は全国を5ポイント以上、上回っている。

●領域「変化と関係」に関わる問題の正答率は昨年度から引き続き全国値より低い。また、領域「変化と関係」に関わる問題の無回答率は、全国値より高くなっている。

●「変化後の数値」が「変化前の数値」の何倍になっ



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

○日常生活の事象に見られる増量の場面を振り返り、その場面を図に表したり、考えやすい数を用いたりすることで、増量の場面における数量の関係を捉えさせるような授業展開を構想する。

（1）問題内容を表している図として、正しい図と誤っている図を提示して比較・考察する場を設定する。

- ・視覚的に基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えさせる
- ・基準量を1（百分率の場合は100）と捉えることができるようにする。
- ・言葉による説明をする（〇〇は△△の何倍です など）場を設定する。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

### 1 調査結果の分析

※網掛けは、全国平均正答率を上回っているもの

|          |              | 津久見市 | 大分県  | 全国   |
|----------|--------------|------|------|------|
| 全体       |              | 61   | 60   | 57.1 |
| 学指導要領の領域 | エネルギーを柱とする領域 | 51.3 | 51.8 | 46.7 |
|          | 粒子を柱とする領域    | 52.2 | 52.7 | 51.4 |
|          | 生命を柱とする領域    | 57.5 | 55.1 | 52.0 |
|          | 地球を柱とする領域    | 70.3 | 69.2 | 66.7 |
| 評価の観点    | 知識・技能        | 60.2 | 59.0 | 55.3 |
|          | 思考・判断・表現     | 61.4 | 60.7 | 58.7 |

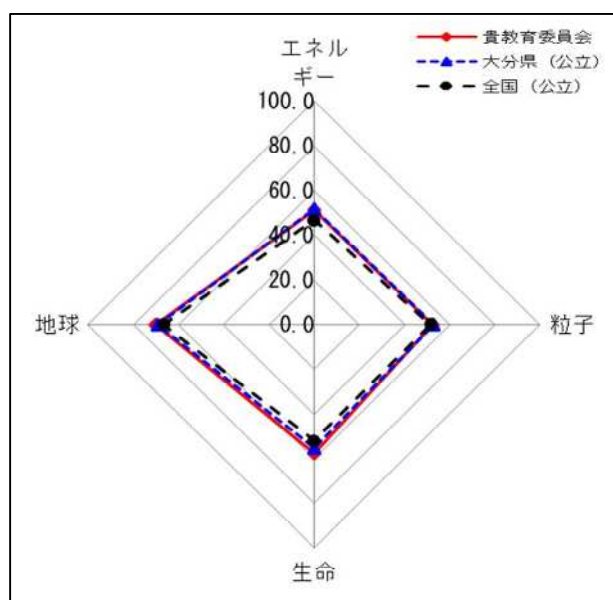
#### 小学校：理科

○全体の全国平均値は全国・県を上回っている。

○評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国・県を上回っている。

○領域別では「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」において、全国・県を上回っている。

●問題に対するまとめを導き出す際、解決する



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：理科

○正しい実験を行うために、どのように条件を整理し、考察を深めるかを具体的に記述する授業展開を構想する。

(1)「何を比べるか」「何をそろえるか」などを実験前に条件整理表に書き出させる。

- ・実験の目的や正当性を説明できるようにする。
- ・多様な視点を知るためにグループで比較し合う。
- ・1つだけを変えて比べること（条件制御）の大切さを伝える。
- ・日常生活との関連付けを図る。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。

# 【 津 久 見 市 】

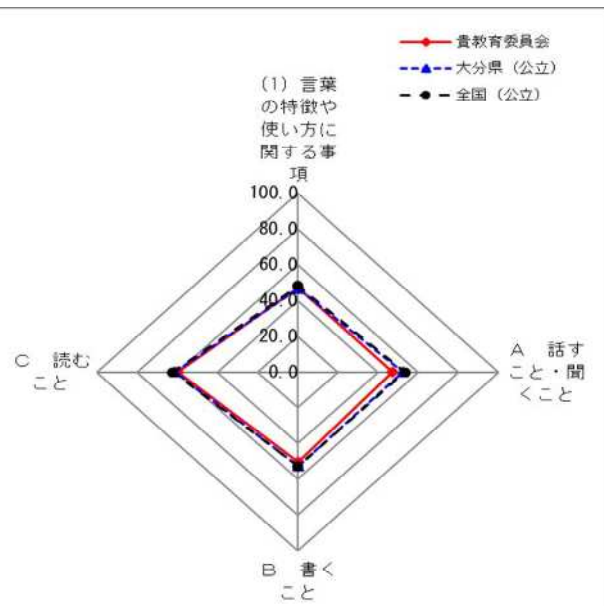
## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・国語）

| 1 調査結果の分析     |                  |           | 津久見市   | 大分県  | 全国   |
|---------------|------------------|-----------|--------|------|------|
| 全体            |                  |           | 51     | 53   | 54.3 |
| 学習指導要領<br>の内容 | 知識及び技能           | 言葉の特徴や使い方 | 47.1   | 46.5 | 48.1 |
|               |                  | 情報の扱い方    | 対象問題なし |      |      |
|               |                  | わが国の言語文化  | 対象問題なし |      |      |
|               | 思考力・判断<br>力・表現力等 | 話すこと・聞くこと | 47.1   | 52.1 | 53.2 |
|               |                  | 書くこと      | 50.1   | 52.7 | 52.8 |
|               |                  | 読むこと      | 59.7   | 61.1 | 62.3 |
| 評価の観点         | 知識・技能            |           | 47.1   | 46.5 | 48.1 |
|               | 思考・判断・表現         |           | 51.5   | 54.6 | 55.3 |

### 中学校：国語

●全体の平均正答率・領域別・観点別・解答形式別の全ての項目において、全国の数値を下回っている。特に、「話すこと・聞くこと」においては全国の数値と比べて、5ポイント以上も下回っている。

●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題に課題が見られる（全国の数値に比べ、正答率は10ポイント下回っている。無回答率は10ポイント上回っている）。



## 2 具体的な改善方策

### 中学校：国語

○生徒が自分の文章をよりよくするために見直し・修正する授業展開を構想する。

（１）自分の文章を読み直し、伝わりやすく、的確な表現になるように修正できるように指導する。

・チェックリストをつかった推敲に取り組む。

①主語と述語は合っているか・伝えたいことは明確か

②相手意識をもって語句の選び方や文の構成をしているか など

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。

・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・数学）

### 1 調査結果の分析

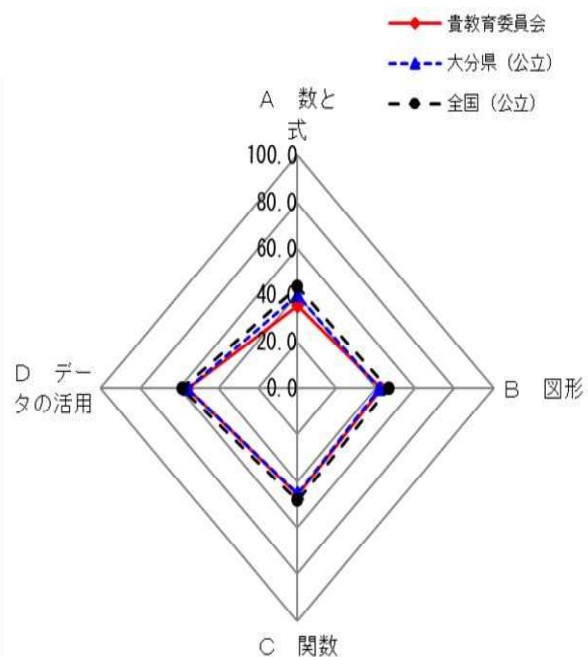
|          |          | 津久見市 | 大分県  | 全国   |
|----------|----------|------|------|------|
| 全体       |          | 43   | 45   | 48.3 |
| 学指導要領の領域 | 数と式      | 35.4 | 39.9 | 43.5 |
|          | 図形       | 42.6 | 42.0 | 46.5 |
|          | 関数       | 46.0 | 45.3 | 48.2 |
|          | データの活用   | 55.6 | 55.6 | 58.6 |
| 評価の観点    | 知識・技能    | 51.6 | 51.2 | 54.4 |
|          | 思考・判断・表現 | 31.3 | 34.8 | 39.1 |

#### 中学校：数学

●全体の平均正答率・領域別・観点別・解答形式別の全ての項目において、全国の数値を下回っている。特に、観点別「思考・判断・表現」・領域別「数と式」・解答形式別「記述」においては全国の数値と比べて、5ポイント以上も下回っている。

●昨年度と比べ、正答数が少ない生徒の割合が増加している。

●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題に課題が見られる



### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

○式の意味を具体的な数を当てはながら理解し、一般化したことを言葉や式で説明できるような授業展開を構想する。

- （１）文字を使って数量や性質を一般的に表現できるようにする。
- （２）「帰納的思考」⇒「演繹的思考」の流れを意識させる。
- （３）数学的な表現を用いて説明する活動を設定する。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・１時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

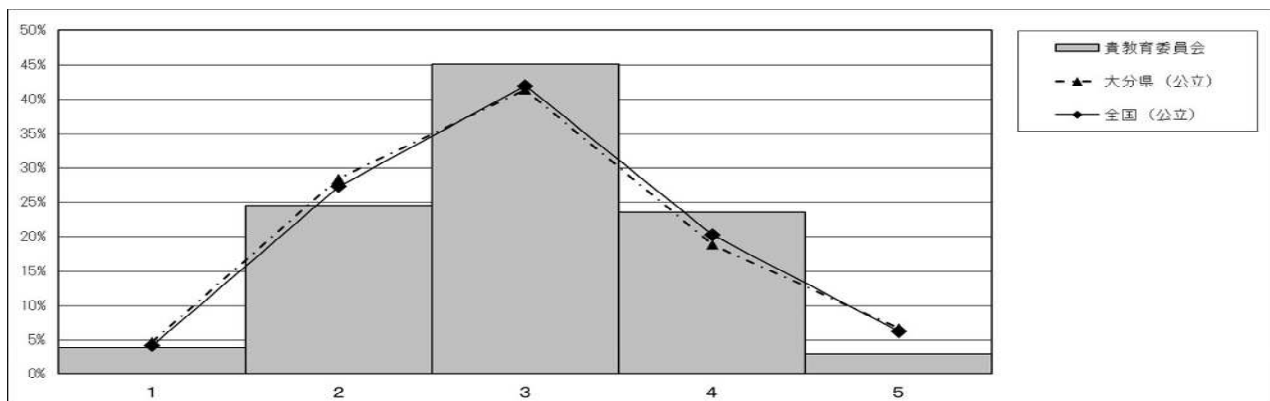
# 【 津 久 見 市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・理科）

### 1 調査結果の分析

|                |          | 津久見市 | 大分県  | 全国   |
|----------------|----------|------|------|------|
| 平均IRTスコア       |          | 507  | 501  | 503  |
| 評価の観点<br>(参考値) | 知識・技能    | 68.9 | 66.5 | 66.8 |
|                | 思考・判断・表現 | 40.1 | 38.3 | 38.8 |

IRTバンド分布グラフ



#### 中学校：理科

- 平均IRTスコアについて、全国の数値を上回っている。
- （参考値ではあるが）観点別について、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国の数値を上回っている。
- IRTバンド分布グラフについて、全国・県と同様に推移している。
- 地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構想する粒の大きさとすき間の大きさに

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：理科

- 観察やモデル実験を通して、地層の働き・地下水の存在や移動を視覚的に理解させる授業展開を構想する。
  - （１）現象を科学的に説明する場面を設定する。
    - ・実験結果を表やグラフにまとめる
    - ・論理的に説明させる場を設定する。
  - （２）ICT教材を活用する。
    - ・地層の３Dモデルや動画などを用いて、地下の構造を視覚化する。 など
- 主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成
  - ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
  - ・１時間の中で自己決定の時間の確保をする。

# 【 津久見市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問調査

・「自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」項目については、全国  
の値より5ポイント以上低い（昨年度も全国の値を超えていなかった）。

・「理科の授業は好きですか」「理科の授業において理科に疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがあ  
りますか」など理科に関する項目において、全国の値に比べ低い項目もあるが、全国の値を超える項目が増加  
した。

#### 生徒質問調査

・「～根拠を明確にして考えていますか」「読み手の立場に立って～」など説明することに関する項目について、  
全国の値より低い。

・ICT の活用について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒が合計89.4%となり、全国の値を上回る  
結果となったが、「ICT 機器で文章を作成することができますか」という項目では、全国の値を下回っ  
ている。効果的な使用については今後も工夫改善が必要である。

### 2 津久見市の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

#### ◇「対話的な活動を通して、説明する力を育む」指導の充実

- ・方針を明確にさせる
- ・考えの根拠を明確にさせる
- ・説明の振り返りをする

#### ◇学びに向かう力の育成

- ・観点「主体的に学習に取り組む態度」の効果的な評価計画への位置づけ
- ・生徒指導の3機能（自己決定の場）を意識した授業づくり
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じることでできる振り返りの設定
- ・日常生活との関連を通して理解を深め、有用性を感じさせる授業づくり

#### ◇個別最適な学びが保障された指導の充実

- ・ICT 機器の効果的な活用

# 【 津久見市 】

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

### Ⅰ 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問調査

・「自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」という項目において肯定的な回答が全国値に比べて高いが、「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」という項目では全国値に比べて低い。→対話的な活動は行われているが、説明する力を育むための授業改善が必要と思われる。

・「授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか」という項目において、肯定的な回答が全国値に比べて低い。→主体的な学びを核とした単元計画の作成が必要と思われる。

#### 中学校：学校質問調査

・「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか」という項目において肯定的な回答が全国値に比べて低い。また、学力調査では根拠を明確にして考える問題や理由や事象を説明する問題について全国正答率より低い結果となっている。→説明する力を育むための授業改善が必要と思われる。

・「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」という項目に関して、肯定的な回答が全国値に比べて低い。→学習規律の見直しは随時学校で行われている。

### 2 津久見市の学校質問調査の結果をふまえて

#### ◇教科横断的に仕組む授業の推進

- ・「説明する力」を育むための授業改善
- ・自己決定の場や振り返りの場の設定など授業改善
- ・生きて働く知識・技能を習得するために教科を関連付け、主体的な学びを核とした単元計画の設定
- ・ICT機器の計画的な利用

#### ◇家庭・地域との課題の共有、改善策の検討

- ・目標やビジョンを共有するための熟議の場（学校運営協議会など）の設定